

九州元気企業

NRS
廃石膏ボードR施設を改良

可搬型選別も2機導入

建設系廃棄物などでラインの中で、ふるい10tコンテナで直接ユ
実績を重ねるNRS機に手を入れた。1tまで持って行く

(北九州市若松区、中ふるい機の改良は、ことも可能だ。

山卓社長、☎093・分離後の古紙に付着し 同社は、本社近く3

752・6100)は、た、石膏粉の付着を落 000坪の用地を確保。

日量80t処理能力の廃 とす効果を高めるた 選別専用の「第2工場」

石膏ボードリサイクル め。従来よりも効果は、 にする計画だ。徹底し

施設を改良した。処理 数倍アップとなった。 た選別を実施すること

加えて、 で、混合廃棄物を分別

石膏粉の して、廃石膏ボードの

出口付近 処理量を増やすねらい

を直すこ がある。来年度中に、

とで、コ 今ある本社工場(30

ンテナに 00坪)を「第1工場」

積み込む として、廃石膏ボード

作業効率 処理をメインにする。

は、大幅 現在は、本社工場で、選

に改善。 別と廃石膏ボードの両

フレコン 方の処理をしている。

バック 排出現場により近い

は、ノン 場所を選別できるマシ

ストップ ンも2機導入した。可

で作業が 搬型選別機(大洋マシ

できる。 ナリー製)は、フック



可搬型選別機

ロールで運ぶことがで
きる。現場近くまで持
つていき、処理物を選
別して、分別後の再生
資源は、利用先まで直
接運ぶ。新しい体制を
整備した。

同社は、2008年
3月、廃棄物の破碎・選
別をメインとした中間
処理業として設立。同
年7月から営業を開始。
09年3月には完全屋内
型の中間処理施設E1
Gセンターを開設し
た。持ち込み業者の受
け入れにも積極的で、
自社回収部門以上に力
を入れている。施設内
にはトラックスケール
を完備。受け入れはす
べて重量で計測する。